

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がある」創業48年来のジャパン・アーツの理念です。

どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、

人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに

掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

今年度も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

2024年度ご支援いただいた皆様

<2024年度 年間サポート>

井上 豊 上原啓子 上村憲裕 M.U K.O S.O 小田島容子 片山由美子
H.K K.K 栗田美知子 新貝康司 M.S M.T R.T A.D トゥルーラブ真智子
トゥルーラブ真凜 K.N 兒子弥生 S.N M.H 平山美由紀
藤野盾臣 松尾芳樹 真野美千代 J.M M.M (株)青林堂

(匿名希望 13名)

<2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

井口和美 K.K Rimiko M.H M.M 真野美千代

水足久美子 水足秀一郎 ロロコミ・リリコミ

(匿名希望 12名)

<2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

井口和美 T.O K.K Rimiko M.T 平山美由紀 細沼康子

M.M 真野美千代 村瀬治男 ロロコミ・リリコミ

(匿名希望 11名)

2024年8月29日現在 敬称略

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

～愛と平和への祈りをこめて Vol.14～

森 麻季

ソプラノ・リサイタル

「蝶々夫人」を歌う～プッチーニ没後100年によせる

ピアノ:山岸 茂人

Shigeto Yamagishi, *Piano*



Maki Mori
Soprano Recital
2024

2024年9月16日(月・祝)14:00開演

東京オペラシティ コンサートホール

2:00p.m., Monday, September 16, 2024 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催:ジャパン・アーツ

人のいるところには
夢がある。



JAPAN ARTS



Program

山田耕筰:この道

Kousaku YAMADA: Konomichi

團 伊玖磨(生誕100年):ひぐらし、舟唄(片恋)

Ikuma DAN: Higurashi, Funauta

山田耕筰:からたちの花

Kousaku YAMADA: Karatachinohana

フォーレ:ノクターン第4番 変ホ長調 作品36 (ピアノ・ソロ)

Gabriel Fauré: Nocturne No.4 Es-Dur Op.36

フォーレ(没後100年):「レクイエム」より“ピエ・イエズ”

Gabriel Fauré: Pie Jesu from Requiem

フォーレ:祈り

Gabriel Fauré: En priere

フォーレ:夢のあとに

Gabriel Fauré: Après un rêve

フォーレ:リディア

Gabriel Fauré: Lydia

ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ (ピアノ・ソロ)

Maurice Ravel: Pavane pour une infante défunte

プーランク(生誕125年):愛の小径

Francis Jean Marcel Poulenc: Les chemins de l'amour

ミヨー(没後50年):ロンサール「4つの歌」より

“神様が護ってくださいますように”

Darius Milhaud: Dieu vous gard' from Chansons de Ronsard



プッチーニ(没後100年):『蝶々夫人』より

Giacomo Puccini: Madama Butterfly

海にも陸にも春風はそよぎ

Ancora un passo or via

昨日私は1人きりで

Ieri son salita tutta sola

あの方は大きな心で～ある晴れた日に

Egli, col cuore grosso - Un bel dì, vedremo

それではこの子は? ～お前の母さんがお前を胸に抱いて

E questo? ~ Che tua madre dovrà prenderti in braccio

見ててごらん、可愛い坊や～白い旗の軍艦が～あの桜の枝を揺すって

Vedrai piccolo amor ~ Tu tu piccolo iddio! ~ Una nave da guerra Bianca ~ Scuoti quella fronda di ciglietto

《蝶々夫人》より ホジャイノフ編 ハミングコーラス (ピアノ・ソロ)

Humming Chorus (arr.Khozaiov) for solo piano

誇りをもって生を全うできぬ者は誇りをもって死ぬ

Con onor muore

Essay

弛まぬ努力で獲得された 人を元気にする美しい平和の歌声

森麻季の歌は人を元気にする。戦争に、震災に、残念なことも多い世の中、森の歌からは元気をもらえる。そして、歌声を浴びながら平和の尊さを知らされる。なぜだろうか。それは彼女の歌が平和そのものだからだと思う。

平和を体現する歌。それは平和を築くと同じくらい、つくり上げるのが大変だ。

アーウィン・シュロット、ジョイス・デイドナートに次ぐ成績でプラシド・ドミンゴ主宰のオペラリアに入賞し、1998年には日本人ではじめてワシントン・ナショナル・オペラに出演した森。そこでは《リゴレット》のジルダを、アンナ・ネトレプコとダブルキャストで歌っていてもいる。

しかし、この順調な船出は、彼女のキャリアの一端にすぎない。森麻季がいまあるのは、その後の弛みない努力と前進があったからである。

駆け出しのころから、美しくやわらかい声はもちろん、曲を造形する力や正確な音程は群を抜いていた。そしていまも、とびきりの叙情性が求められる役や、至難の技巧を凝らすべき役を、みずみずしさを失わない声を自在に操舵し、飛翔させながら、鮮やかに歌う。最近歌った《ジュリオ・チェザレ》のクレオパトラや《魔笛》のパミーナはその一例だ。

こうしてデビュー時とあまり変わらないレパートリーを、生き生きと歌う力を維持できるのは、並大抵のことではない。

だが、いまの森の歌は以前よりずっと、心の深いところに届く。歌の力が聴き手の心の奥底に直接呼応する。だから魂を揺さぶられる。そうした歌の力が、声を保ちながらさらに技術を高める不断の努力に支えられていることは、いうまでもない。

森麻季は最近、《蝶々夫人》のタイトルロールもレパートリーにした。彼女の声には劇的にすぎる、と思う向きもあるだろうが、じつは蝶々さんは、一般に思われているよりもずっと繊細に歌われるべき役だ。森にはそのことを読みとる力と、自分の声に引き寄せて歌う力が兼ね備わっていた。だから、無理のない歌唱で聴き手の涙を誘う。

こうしたすべては、妥協なく真摯に芸術と向き合ってきた賜物である。言うは易く行うは難しい点は、平和を守ること同様だが、森麻季はそれをやってのけている。だから、その歌を聴くと元気になる。

香原斗志 (オペラ評論家)



Profile

森 麻季 Maki Mori (ソプラノ, *Soprano*)

東京藝術大学、同大学院独唱専攻、文化庁オペラ研修所修了。ミラノとミュンヘンに留学し、ブラジド・ドミンゴ世界オペラコンクール「オペラリア」等多数の国内外のコンクールに上位入賞を果たす。1998年ワシントン・ナショナル・オペラ《後宮からの逃走》に日本人としてはじめて出演以来、ワシントン・ナショナル・オペラとロサンジェルス・オペラにおいて、《リゴレット》《パルシファル》《ホフマン物語》《こうもり》《ウェルテル》でドミンゴ、フォン・シュターデ、アラニーヤ、ケント・ナガノ、ジューン・アンダーソン、ブレンデル、オブラストワ等と共演。ルイーシ指揮ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、エディンバラ音楽祭《リナルド》、ノセダ指揮トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》で、フリットリヤアルヴァレスと共演を重ねて国際的な評価を得る。2015年佐渡裕プロデュースオペラ《椿姫》のヴィオレッタは、連日スタンディング・オベーションで讃えられ、2017年鈴木優人指揮&バハ・コレギウムジャパンと共演したオペラ《ポッペアの戴冠》のタイトルロール、同プロダクションによる2020年《リナルド》のアルミレーナ、2023年《ジュリオ・チェーザレ》のクレオパトラ、2024年《魔笛》のパミーナ、そして2022年《椿姫》Bunkamuraシアター・オペラ・コンチェルトのヴィオレッタは、各紙で絶賛を博す。2023年BBCプロムスにデビューし、今夏、山田和樹指揮&バーミンガム市交響楽団定期公演にて、《蝶々夫人》タイトルロールを演じ、英国の聴衆の喝采をあげた。コンサートではアシュケナージ、テミルカーノフ、インバル、小澤征爾、チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィ、ハーディング等の著名指揮者やNHK交響楽団、ウィーン・フィル、ベルリン・フィルのメンバー、フランクフルト放響、サンクトペテルブルグ・フィル、ドレスデン国立歌劇場室内管等の内外の主要オーケストラ、ドレスデン聖十字架教会合唱団などと共演し成功を収める。毎年自ら企画する「愛と平和への祈りをこめて」コンサートは、今年14回目を迎える。古典から現代まで幅広いレパートリーを誇り、コロラトゥーラの類稀なる技術、透明感のある美声と深い音楽性に定評を持ち、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」メインテーマやNHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌うなど、日本を代表するオペラ歌手として常に注目をあびる。CDはエイベックス・クラシックスよりリリース。安宅賞、ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。国立音楽大学客員教授。東京音楽大学特任教授。



©Yuji Hori

X : https://twitter.com/makimori_sop

Facebook : <https://www.facebook.com/MakiMori.sop/>

Instagram : https://www.instagram.com/makimori_sop/

Profile

山岸茂人 Maki Mori (ピアノ, *Piano*)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学大学院(音楽学専攻)修了。在学中に安宅賞受賞。古典から近代にわたるイタリア歌曲を嶺貞子氏に、ドイツ歌曲を佐々木成子、ライナー・ホフマン各氏より学ぶ。ピアノを川口恒子、渡辺健二、高出紘子の諸氏に、また、音楽学を船山隆、本田脩の各氏に師事。声楽の伴奏者としては演奏家から常に深く信頼され、これまで著名な歌手と数多く共演を重ねる。森麻季とは四半世紀の名コンビ。現在、東京藝術大学声楽科伴奏助手、二期会イタリア歌曲研究会ピアニスト。



撮影：横井明彦

Program Notes

柿沼 唯(作曲家)

山田耕筰(1886-1965)

1926年(大正15年)から翌年にかけて、山田耕筰は100曲の童謡を作曲し、それらを「童謡百曲集」として発表した。今日、国民的愛唱歌として親しまれている〈赤とんぼ〉などの優れた歌とともに、北原白秋作詞の〈この道〉もこの曲集に含まれている。童謡ならではの純粋な感性はもちろん、これは大人にとっても幼き日への郷愁をさそう名歌といえよう。〈からたちの花〉も多くの童謡を生み出した北原白秋と山田耕筰のコンビによる、いわずと知れた名歌。詩は大正13年に「赤い鳥」に発表され、曲は翌14年に発表された。山田耕筰はこの曲に寄せた文章で、活版工場働いていた10歳の頃の、工場の周りの畑に垣根として植えてあったからたちの思い出を語っている。

團 伊玖磨(1924-2001)

〈夕鶴〉をはじめとする数々のオペラや、ドラマティックな作風のオーケストラ作品など、あらゆる分野に多くの作品を残した團伊玖磨。その歌曲は、日本語の抑揚を生かし叙情性に富んだ佳曲として、今日、日本歌曲のレパートリーには欠かせないものとなっている。〈ひぐらし〉は、夕暮れ時のメランコリックな情景をロマンの香り高く歌い上げる。〈舟歌(片恋)〉は、1946年に作曲された初期の作品ながら、北原白秋の詩のもつ情緒を見事に伝える一曲。2/4拍子のテンポは「Andantino alla giapone(日本風のアンダンティーノ)」と指示されている。

Program Notes

G.フォーレ(1845-1924)

近代フランスの作曲家ガブリエル・フォーレは、生涯の多くの時間を教会オルガニストもしくは合唱長として捧げたが、宗教作品は必ずしも多くはない。しかし、母の死をきっかけに1888年に作曲された「レクイエム」は、フォーレがこの一作をもって宗教音楽史にかけがえのない名作をもたらした傑作である。＜ピエ・イエズ＞はその第4曲。きわめて簡潔な作りながら、フォーレならではの純粋な内面性をたたえる一曲だ。「めぐみ深き主イエスよ、彼らに安息を与え給え。永遠の安息を与え給え」と歌われる。＜祈り＞は、初期の合唱名曲＜ラシーヌの雅歌＞と同様の、Cantique(頌歌)に分類される名品。グレゴリオ聖歌のアンティフォナ(交唱)の歌唱様式が、メロディの作法に垣間見える、文字通りの祈りの音楽である。「もし幼子の声があなただのものに上ってゆくなら」「おお、わが父よ」「聴いてください、あなたのみ前に跪いているイエスの」「祈りを！」。フォーレは、100曲を超える歌曲を残したが、どの曲にもフォーレの音楽の本質である純粋な内面性がたたえられている。＜夢のあとに＞の美しいメロディは、チェロやヴァイオリンの編曲でも親しまれているポピュラーな一曲。「君の姿が誘う眠りの中に燃える幸せを夢見た」と歌い出される詩は、トスカーナ地方の愛の歌を、パリ音楽院声楽科の教授だったピュッシェヌが翻案したもの。作曲当時フォーレは、婚約解消による失意のどん底にあり、その彼を心から慰めたのがピュッシェヌだったという。＜リディア＞は、ルコント・ド・リールの詩による初期の作品(1870年作曲)。「リディアよ、そのばら色の頬に、その白いうなじに、金色の髪が落ちる。私はお前を愛し、そして死ぬ。おお、恋人よ！数々の口づけに私の魂は奪い去られた。私に命をかえしておくれ、私がいつでも死ぬるように！」歌い出されるそのメロディは、リディア旋法(教会旋法の一つで＜faの旋法＞とも呼ばれる)で書かれており、独特の静謐さと格調の高さをそなえている。

F.プーランク(1899-1963)

愛の小径

フランス風のエスプリと軽妙洒落な作風で知られるフランシス・プーランクが残した150曲にのぼる歌曲は、多彩な魅力にあふれている。この曲は、その中でも特に変わり種の一曲で、歌曲というよりはシャンソンと呼ぶのがふさわしいような、しゃれた味わいの歌だ。J. アヌイの詩による。

D.ミヨー(1892-1974)

ロンサール「4つの歌」より “神様が守ってくださいますように”

プーランクと同じく「フランス六人組」の一人ミヨーは、楽天的で多彩な作風で知られる。16世紀フランスの詩人ロンサールの詩による「4つの歌」は、1940年にニューヨークで作曲されたソプラノとオーケストラのための作品。この曲は、春の忠実な使者たちを讃えるオード(頌歌)で、様々な鳥や、香り高い花々、色とりどりの蝶々などが登場する。

ジャコモ・プッチーニ(1858-1924)

「蝶々夫人」

「蝶々夫人」は、長崎を舞台とした異国情緒豊かなオペラとして、世界的人気を博しているが、その最大の魅力は何といってもプッチーニ特有の旋律美にあるといえるだろう。“ある晴れた日に”は、数あるプッチーニの名歌の中でもとりわけ名高い名旋律。海軍士官ピンカートンの帰りを信じて、「ある晴れた日、海の向こうに一筋の煙が上がり」と歌い出されるこの曲は、ピンカートンの乗艦が入港して彼が坂道を上ってくる時の様子を想像しながら、自らの心を慰める。しかしやがては悲痛な感情にさいなまれ、ピンカートンの子供を抱きしめて、「辱めを受けて生きるより、死ぬほうがよい」と歌う(アリア“お前のお母さんがお前を胸に抱いて”)。ついにピンカートンの船が入港し、喜びに涙する蝶々さんだったが、ピンカートンに捨てられた事を悟った蝶々さんは自殺を決意し、子供に別れを告げるのだった(アリア“可愛い坊や”)。

Maki Mori
Soprano Recital
2024

